

「2019年11月19日(火)は北海道の日本海側を中心に雪が降り、大荒れの恐れ。」

昨年末から、こうした天気予報が何回か出されました。それでも、本格的な冬の訪れとはならないでしょう、ともいわれました。折角北海道らしくなる、と感じたのに残念なことでした。やはり、北国には雪景色が似合います。

「12月18日(月)～19日(火) 低気圧が発達 一時的に強い寒気が流れ込み、

あす18日(月)からあさって19日(火)にかけて、沿海州付近の低気圧が発達しながら北東へ進み、低気圧から延びる寒冷前線が、日本列島を通過する見込みです。」北海道では、日中は湿った空気の影響で雨が降り、雪がまじる所があるでしょう。前線の通過後は冬型の気圧配置が強まり、北海道の北で発達する低気圧が大陸から強い寒気を引き込みます。

札幌の積雪深は25日6時現在で0cmとなっています。

観測地点で0cmなので、市内の幹線道路（でなくても）では路面が露出しています。

年末年始のテレビ画面を見てびっくり。全く雪がない。路面が乾いている、もちろん雪の壁もない。屋根もからから。この時期は雪国となっているはず。ちなみに積雪深の平年値は25cmです。この時期に積雪0cmとは、1978年以来41年ぶりの記録ということです。

その前回（1978年）の12月は11日に積雪23cmになっていますが27日に0cmになっています。

今年は4日に10cmになりましたがその後はまとまった雪がなく今に至ります。

**1978～1979年**、東日本、西日本で戦後第2位の高温となった冬で、平均気温は全国的に1度以上高く、2月は東日本を中心に顕著な高温でした。

今年とはとにかく、前回よりも降っていないのですね。降ってもすぐ消えてしまう。

私の札幌生活は、全国的な暖冬傾向の中でした。

山間部の雪不足は、春以降の水資源問題を引き起こします。雪に関わる業者は、お手上げするしかないでしょう。

雪の上を歩いていた障害ある方たちは、幾分、安堵しているのでしょうか。